

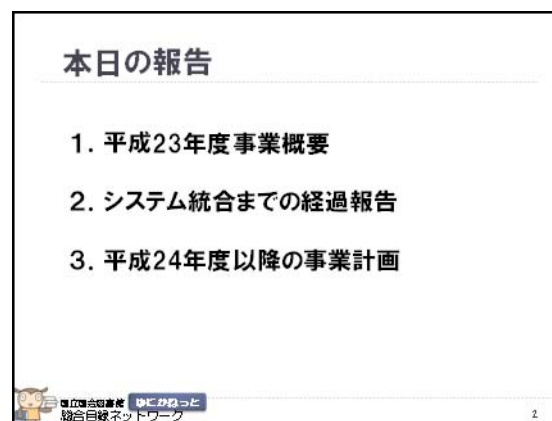
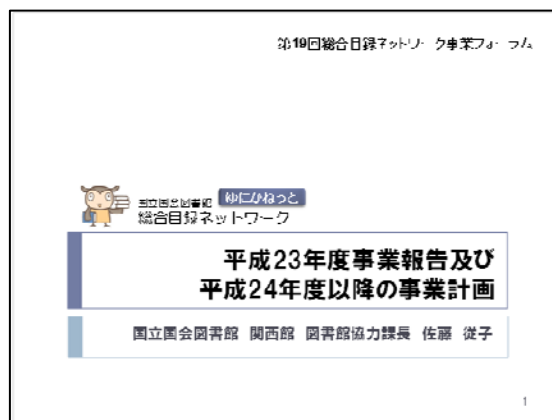
## 2. 平成 23 年度事業報告及び平成 24 年度以降の事業計画



国立国会図書館関西館図書館協力課長  
佐藤 従子

図書館協力課長の佐藤と申します。日頃、国立国会図書館総合目録ネットワーク事業にご協力いただき、ありがとうございます。また、参加館の皆様にはシステム統合にあたり、ご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。おかげさまで無事、新たな形でスタートすることができました。

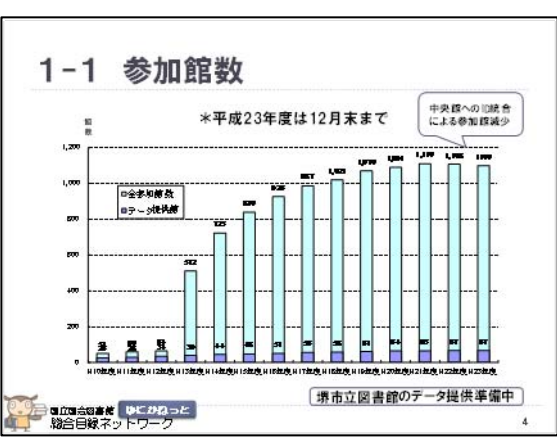
本日の私からの報告ですが、最初に各統計を中心とした今年度のここまでの事業の概要、続いて本年 1 月に行った国立国会図書館サーチへのシステム統合の経過のご報告、そして来年度以降の事業の方向性と進め方についてご報告させていただきます。



早速ですが、国立国会図書館総合目録ネットワーク（通称ゆにかねっと）事業の概要を、昨年 12 月末までの統計を元にご報告します。

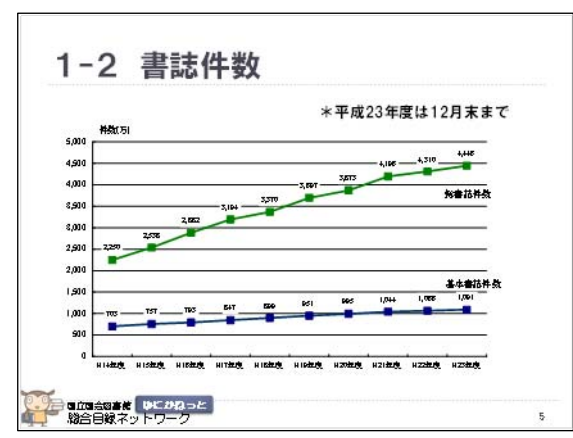
# 1 平成23年度事業概要

最初に参加館数は、ここ数年間比較的ゆるやかに増加してきましたが、昨年度と今年度は若干ですが減少しました。これは、中央館で集約して相互貸借依頼を行っている市町村などで、分館が脱退されたためです。ゆにかねっとのシステム統合に際して、参加館 ID を NDL-OPAC の利用者 ID に変更していただいたのを機に、ID の管理や利用について見直された参加館があったのだと推測しています。

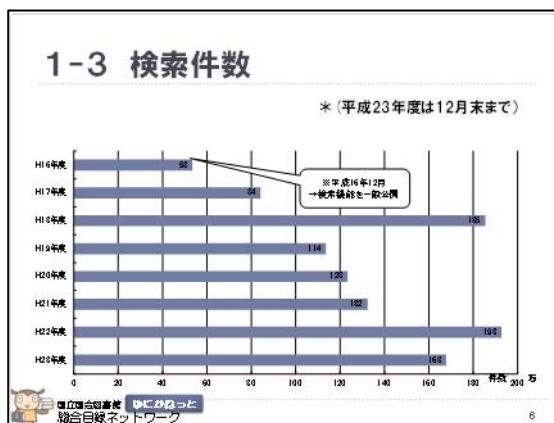


データ提供館は 67 館で変更がありませんが、現在、堺市立図書館にデータ提供をさせていただく準備をしています。

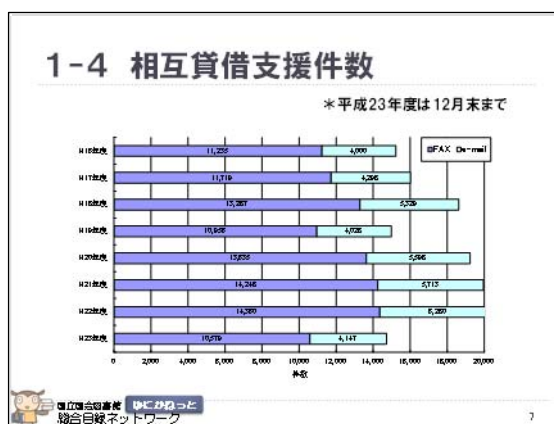
書誌件数については、平成 23 年 12 月末の総書誌数が 44,462,591 件、基本書誌数が 10,910,615 件です。総書誌数は 10 年前に比べると約 2 倍になりました。



次にゆにかねっとがどれくらい利用されているかを示す検索件数ですが、こちらは年によってかなり変動があるのですが、平成 22 年度が約 193 万件、今年度は 12 月末までで 168 万件でしたので、そのまま行けば年度全体で 200 万件を超えたのではないかと思います。



もう一つ、相互貸借支援件数については、ここ 2~3 年は漸増の傾向にありました。FAX、メールとも件数に大きな変化はありませんでした。今ご報告した統計の中には、検索件数など今後はゆにかねっとのみ抜き出してお示しすることができなくなる数値もありますし、NDL サーチへの統合によって今後データ提供の方法や利用の仕方変わってくるかと思えます。旧システムでの事業がどのように推移してきたかを示すものとしてご報告いたしました。



各都道府県、政令指定都市立図書館の主催で実施していただいている総合目録ネットワークについての研修についてですが、今年度は青森県と広島県で開催していただき、合計で 23 館 37 名にご参加いただきました。ご協力ありがとうございました。

### 1-5 各図書館主催研修会

**都道府県/政令指定都市立図書館主催研修会**

青森県、広島県

参加者：合計23館・37名

**ありがとうございました！**

国立国会図書館 ゆにかねっと 総合目録ネットワーク 8

続いて、NDL サーチへのシステム統合に  
関係した動き、事務局の活動についてご報告  
いたします。

## 2 システム統合までの経過

昨年度のフォーラムで、システム統合まで  
の予定と統合後の事業の方針について、私か  
らお話をさせていただきましたが、今年度に入  
ってから、その内容を文書にまとめて 7 月  
に全参加館に送付いたしました。

9 月には全データ提供館 67 館に対して、  
旧システムからのご提供データの移行につ  
いての許諾依頼をお送りしました。また、9  
月以降、順次、新しいシステムについての研  
修や説明会を当館や各地の図書館等で実施しました。このデータ移行許諾と研修及び説明  
会については後ほど補足説明をいたします。

そして 10 月末に旧システムからの本番データ移行を行い、12 月 5 日からはデータ提供  
館からお送りいただくデータの送付先を切り替えて NDL サーチでのデータ更新を開始し  
ました。このデータ転送先切替えにあたっては、運用の変更が重なり、データ提供館の皆  
さまにはご負担をおかけし、大変申し訳ありませんでした。ご協力ありがとうございました。

今年 1 月 6 日に NDL サーチが本格稼働したわけですが、ゆにかねっととしては 1 月 10  
日の ILL 支援機能の提供開始をもって全面移行となりました。その後、遅くなりましたが 2  
月に事業要項と参加館規定を新しいシステムや事業運営体制に添った形に改正いたしまし  
た。

## 2 システム統合までの経過

平成23年 7月	統合計画、現行システムからの変更点等についての文書 を参加館へ送付
9月	データ提供館へのデータ移行許諾依頼発送
9月以降	データ提供館等での研修・説明会実施
10月	総合目録ネットワーク事業担当者研修会（東京・関西）
10月28～30日	本番データ移行
12月5日	データ転送先切替え
平成24年 1月6日	国立国会図書館サーチ本格稼働
1月10日	ILL支援機能の提供開始
1月20日	旧システムのサービス停止
2月17日	事業要項及び参加規定の改正



ゆにかねっと

総合目録ネットワーク

10

以上が統合までの主な経過ですが、いくつか補足して説明させていただきます。まず、データ移行についての許諾に関してです。先ほども申し上げたとおり、昨年 9 月に、データ提供館に対して、旧システムに収録していた書誌データ、所在データの新システムへの移行と検索サービス及び相互貸借支援サービスでの利用について、許諾の依頼状を送付し、12 月半ばまでに全データ提供館から許諾の回答をいただきました。ただし、それらのデータの API を通じたダウンロードサービスの提供については、当館から各データ提供館で採用されている商用 MARC ベンダの各社にご相談した結果、当面実施しないことにしました。23 年 8 月公開のプロトタイプシステムでは試験的に API によるダウンロードが可能となっていました。本格稼働と共にデータ提供館由来のデータについては API 提供しておりません。

続いて、新システムについての研修・説明会等ですが、こちらは東京本館で実施した担当者研修会の模様です。

当館で開催する担当者研修会を今年度は東京本館と関西館の両方で開催し、合計 60 名の方にご参加いただきました。それ以外に、②であげていますとおり、昨年 9 月から本年 3 月までの間に計 11 か所で NDL サーチに統合後のゆにかねっとについて説明の機会を持ちました。主に当館での研修に参加しにくい遠方で説明の機会を頂いたり、あるいは既に計画されていた定例の研修にお呼び頂いたりして開催したものです。NDL サーチの新しいサービスには各地で非常に高い関心を持って頂きまして多くの方にご参加頂きました。

## 2（補足）データ移行許諾について

- ①旧システムに収録されていた各データ提供館の書誌・所在データの新システムへの移行と検索サービス及び相互貸借支援サービスでの利用については、全データ提供館から許諾の回答を得ました。
- ②新システムでのデータのダウンロードを可能にする API 提供については、商用 MARC ベンダとの協議の結果、当面行わないこととしました。

国立国会図書館 ゆにかねっと  
総合目録ネットワーク

11

## H23総合目録ネットワーク担当者向け研修会



国立国会図書館 ゆにかねっと  
総合目録ネットワーク

12

## 2（補足）研修会、出張研修

### ① 担当者研修会

平成23年10月7日 関西館（参加者：26名）  
10月18日 東京本館（参加者：34名）

### ② データ提供館等での研修・説明会

平成23年9月1～2日 北海道図書館大会  
9月5～7日 長崎県、佐賀県、福岡県  
11月24～25日 鳥根県、山口県  
12月15日 中国・四国地区（@徳島）  
平成24年2月9日 愛知県  
2月16日 大阪府  
2月24日 青森県  
3月2日 福井県

国立国会図書館 ゆにかねっと  
総合目録ネットワーク

13

システム移行後のデータ登録や利用の状況について、こちらの表に示しています。各書誌数は、国立国会図書館の書誌は含んでいません。12 月 5 日から 2 月末までの新規登録書誌数が 812,021 件、累計の基本書誌数が 5,815,745 件、同定された書誌が 33,989,330 件です。相互貸借支援機能はまだ新しいシステムでの検索と依頼申込に慣れていらっしゃるためか、メールが 773 件、FAX が 1,965 件と若干少なめになっています。

最後に、来年度以降の事業の方向性と進め方についてお話いたします。

## 2 (補足) 2月までの状況

項目	件数	備考
新規登録書誌数	812,021	2011/12/5~ 2012/2/29
基本書誌数	5,815,745	2012/2月末時点、 国立国会図書館含まず
同定書誌数	33,989,330	2012/2月末時点
相互貸借支援件数 (メール)	773	2012/1月~2月
相互貸借支援件数 (FAX)	1,965	2012/1月~2月

## 3 平成24年度以降の事業計画

まずはじめに、ゆにかねっと事業は今後、システム的にはNDLサーチの一部としてサービスを提供していきますので、NDLサーチがどのような方向を目指しているのかについて、簡単にお話いたします。具体的なことは、後ほど小澤の報告の中でご説明します。1点目は、統合検索サービスの提供を更に拡充していくということです。ゆにかねっと事業の推進による図書館蔵書の対象範囲拡大だけでなく、博物館や公文書館との連携も更に進めていく予定です。

2点目の「統合利用促進のための環境整備」というのは、当館書誌の早期提供とその各図書館での利用を促進する、そのための環境整備をする、ということです。

3点目の「外部ウェブサービスとの連携」とは、既の実装している連想検索サービスや機械翻訳サービス等を組み込むことや、外部情報サービスへのナビゲーションを実現することにより、付加価値の高い検索サービスを提供し、利用者の利便性を高めていくことを目

### 3-1 NDLサーチにおける今後の方向性

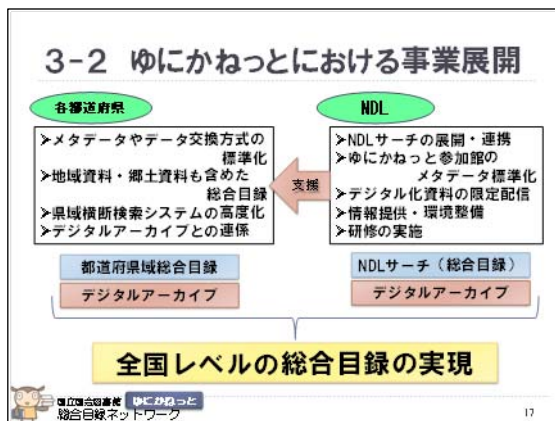
- 統合検索サービスの提供
- 統合利用促進のための環境整備
- 外部ウェブサービスとの連携
- 研究開発・技術開発

指します。

4 点目として、10 月に新設した電子情報部には「次世代システム開発研究室」を設置していますので、ここを中心に新しい技術の研究や開発に取り組み、その成果を NDL サーチをはじめとした各種システムに活かしていきたいと考えています。

以上の NDL サーチの今後の方向性を踏まえて、公共図書館の総合目録事業であるゆにかねつとは、どのように事業展開していくか、当館が目指す方向性について次にお話いたします。昨年のフォーラムやその後策定した「国立国会図書館総合目録ネットワーク事業システム統合計画及び事業方針（平成 23 年度～平成 25 年度）」の中でも述べていますが、今後は各県で構築されている都道府県域横断検索システムとの連携の実現により、検索範囲や資料種の拡大・充実に努めていきたいと考えています。その際、当館が目指したいのは、単に現在ある県域横断検索との連携を実現するのではなく、各県域横断検索システムが一步進んで「県域総合目録」となり、その県域総合目録と NDL サーチが連携することにより、全国的な総合目録を実現することです。

ここでいう「県域総合目録」とは、各都道府県内でのメタデータ相互交換の標準化を実現したもの、特に需要の高い地域資料・郷土資料を包含したもの、更に今後増えていくであろう地域デジタルアーカイブと連携した形で、そしてそれらを提供する横断検索の機能を高度化したものを想定しています。当館としては、NDL サーチにおける検索機能、連携機能の充実、またゆにかねつと参加館のメタデータ標準化や OAI-PMH 実装のための情報提供や支援、公共図書館を主な対象としたデジタルアーカイブ構築支援を行い、当館からのデジタル資料の図書館への限定配信、NDL サーチで開発されたシステムについての情報公開を行って支援していきたいと考えています。



とは言っても、このような大きな変革は一朝一夕で実現できるものではありません。各都道府県での図書館関係予算や資源の制約があることは承知していますし、今後のスケジュールも様々かと思えます。

平成 24 年度においては、NDL サーチの機能改善により各参加館での利便性を向上させるのと並行して、できれば先へのたような方向性をご理解いただきご協力いただける都道府県立図書館数館にモデル館になっていただき、実際のシステム開発に向けてここに挙げたような支援を行いながら、問題点の把握と解決策の検討を行っていきたくと考えています。ご協力いただけましたら、幸いです。

以上、申し上げたことは今後の大きな方向性の話でしたが、各参加館で日常業務で NDL サーチの総合目録機能をお使いになって感じておられること、改善要望等についても、ぜひお寄せいただいて、NDL サーチを通じた総合目録ネットワーク事業の推進に努めてまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくご願ひいたします。

以上で、私からの報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

